

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472601622
法人名	有限会社 坂本企画
事業所名	グループホームたんぽぽ
訪問調査日	平成20年1月22日
評価確定日	平成20年3月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 1月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472601622号
法人名	有限会社 坂本企画
事業所名	グループホームたんぼぼ
所在地	神奈川県相模原市矢部3-14-16 (電話) 042-755-3235

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 11日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人	
職員数	9人	常勤 4人	非常勤 5人	常勤換算 3.1人

(2) 建物概要

建物構造	(2×4 工法)造り
	2 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 500,000 円	有りの場合 償却の有無	有 2年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 日付を入力

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 76 歳	最低	57 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山内科医院・前原整形外科・あさがお歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームはJR、横浜線矢部駅から徒歩3分の交通アクセスのよい住宅地の中にあり、病院等の医療機関、スーパーその他の商業施設、学校、自治会館もすぐ近くにあり生活環境に恵まれています。近隣は広い敷地の住宅が多く点在し散歩の折には気軽に挨拶したり、庭の花や、果物を頂くこともあります。近隣とは非常に友好的で地震など災害時には近所の方々の協力を得ることが可能です。利用者が6名と少人数のための楽しい家庭的なホームです。建物はオーナーの自宅だった物件を借用しており、建築仕様が一般住宅向けのため車イスの使用は難しい状況です。また利用者も階段の昇り降りができないと生活が難しい状況ですがこれがあって利用者の歩行機能維持に役立っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>栄養バランスに関しては、献立は職員と利用者で作成しその内容を保健所の栄養士などにチェックを受けて問題ないことを確認しています。また一人ひとりの栄養分・水分摂取量は新バイタル表で確認して1日の必要量を確保しています。</p> <p>職員の研修に関しては、個人別の研修計画が策定しており、これをもとに各自に目的を持たせた研修を実施しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が外部評価の意義、目的を十分理解しており、改善点などについて話し合い、改善するように努力しサービスの向上を図っています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議に自治会役員、民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等の参加を頂いて開催し、多くの方々から意見を伺って、それらを参考にサービスの向上を図っています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等からの苦情の受付の制度は整っています。未だ家族からの意見・不満・苦情は届いていませんが、面会時や電話連絡の時等意見が聞けるように配慮しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域のお祭り、もちつき等の地元活動に職員、利用者ともに積極的に参加しています。地域の防災訓練に参加して利用者が車イス役を演じています。散歩では近隣の方々と気軽に挨拶を交わし、花や、野菜、果物を頂くこともあります。大学生によるロックコンサートを傍聴したり、小学生とクリスマスにプレゼントを交換したりしてすっかり地域に溶け込んでいます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で相談して、この事業所としての独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有部分に掲示し、管理者と職員は勤務の中で折に触れ話し合い確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の方々とは地域の防災訓練を合同で行う等良好な関係ができています。利用者および職員ともに地域のもちつき大会、お祭り等の地域活動に積極的に参加して地元の方々とは交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに自己評価、外部評価を実施する意義・目的を理解し、改善点等について話し合いを持ち日々改善努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に自治会役員、民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等多くの方々に参加頂いて意見交換して、その内容をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、介護支援専門員、総務担当等がその都度市の担当者と緊密に連絡打ち合わせを行い、良好な関係を保ってサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個人別に毎月近況報告書を家族に送付している。日々の暮らしぶりや、健康状態、病院診療所等の受診の状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者を苦情相談窓口にして、家族等からの意見、不満、苦情を受け付ける体制が整っている。未だこれと言った苦情は出ていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員や管理者の退職や異動による影響を最少限に抑えるように、引継ぎ期間を十分確保する等の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別の年間研修計画が策定され、OJTおよび外部研修などに活用している。研修のための時間、交通費などの費用は会社が負担するなどの支援をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は社会福祉協議会等の会合で他のグループホームの人達との交流をしている。一般職員についても企業内の他のグループホームの職員との交流を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>介護支援専門員・管理者・相談員が本人と面会して、施設を見て頂き、本人が納得した上で入居するシステムとなっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員からの一方的な介護でなく、利用者から昔話を聞いたり、味付けを教わる等、本人から色々と学び、本人のできることはやさしく見守って、本当の家族のように喜怒哀楽をともにし、お互いに支え合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人・家族から、思いや意向をよく聞き取り、言語コミュニケーションが困難な利用者は表情から本人のニーズを把握し、思いや体調にあった居心地のよい環境作りを心掛けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスには、本人・家族・担当職員・管理者・介護支援専門員が同席の上、意見を出し合い、主治医の意見を取り入れながら、生活面・健康面の両面から、一人ひとりの現状や希望に即した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者一人ひとりの身体面・精神面の変化や気づきを具体的に記録し、職員の毎朝のミーティングの時に報告しあい、常に変化を把握し、その都度介護計画の見直しを行っている。新たな要望や状況の変化が無い場合も、6ヶ月に一度見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や意向を聞き、常に化する状況に応じて柔軟な支援をしている。医療機関との連携が取れているので、安心した生活環境が確保されている。指定介護予防認知症対応型共同生活介護の指定を受けているが、今のところ申込がない状況である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから数分の所の医院が主治医のため、定期的な受診ができています。また、訪問歯科医による口腔ケアを行っており、整形外科・眼科・精神内科等の、希望した医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の取り組みにより、正看護師の配属を行い、重度化や終末期に向けて方針を共有する方向付けが出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つける事が無いように十分配慮している。記録等の個人情報、部外者が入室出来ない事務所に保管している。また、事業所自体が、神奈川県個人情報取扱業務登録をして、プライバシーの確保の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日10時のお茶の時間に、利用者一人ひとりの希望を聞きながら、その日の過ごし方を相談し、献立・食材の買出し・散歩等希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立から後片付けまでを、利用者が出来る範囲で一緒に行っている。職員も一緒に食卓を囲み、さり気無くサポートしながら、和気あいあいとおしゃべりしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に2日ごとと決めているが、希望があれば何時でも入浴やシャワーを浴びる事が出来るように支援している。また、衣服の脱着を面倒がって入浴を拒否する利用者には、さり気無く声掛けや、タイミングを見計らって無理強いしない入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度・片付け・散歩・入浴・洗濯物たたみ・牛乳パックを広げる等、利用者一人ひとりにとっての楽しみ、役割を把握して、その人らしさ長所が発揮出来るように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候・体調を考慮しつつ、利用者の希望を聞きながら、食材の買出し、散歩や、近隣の公園へのお花見等季節にあった外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	住宅街の一角に位置し、玄関を出るとすぐ前が車道となっているため、安心・安全を考慮して、昼間も施錠しているが、利用者・家族の了解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルがあり、地域の防災訓練には、利用者・職員が積極的に参加して、災害時における近隣の方々との協力体制ができている。		居室のある2階には非常口が無いため、万が一の場合を想定して避難経路を検討する事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員と利用者で考えているが、提携している特別養護老人ホームの栄養士や、保健所の栄養士に栄養バランスのチェックを受け、一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量を新バイタル表・ケース記録表に記載し、一日の摂取量を確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修してのホームのため、多少狭さの不都合さはあるが、家庭的雰囲気がある。玄関・居間兼食堂の壁には利用者の作品等が飾られ、窓は通りに面して広く取られ、利用者にも来訪者の様子が見えるなど家庭にいるときのように居心地良く過ごせている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮して、ベッドは介護用を使用してもらっている利用者もいるが、家具類は馴染みのものが持ち込まれ、その人らしく安心して居心地良く過ごせる配慮がされている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたんぼぼ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市矢部 3 - 14 - 16
記入者名 (管理者)	高橋 香代
記入日	平成19年12月11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に明記し、誰もが読める所に掲示してある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を共有部分に掲示し、管理者と職員は 職務の中で折りに触れ、対話し合い実践に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入所の際、また折りにふれて説明できている。また、自治会や地域包括支援センター等必要な所に説明し、理解を頂くよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ出し、散歩、買物等日々の暮らしの中で近隣の人々と話し合ったり、自治会の行事に進んで参加することができている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の中で生活していることを自覚し、取り組んでいる。入居の方々・職員とも、防災訓練・もちつき大会・神社の祭礼などいろいろな地域活動に積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>			<p>グループホームが地域の人々に役立つことは何か？地域の人々に支えていただくだけでなく、何か地域に還元できることを考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解し、改善点などについて話し合いを持ち、改善に向けて努力している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、地域の方々や地域包括支援センターの職員と相互に意見交換ができ、ホームの運営に役立てる事ができている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営者・介護支援専門員・総務担当者等が必要に応じて訪れ、サービスの質の向上・改善に取り組んでいる。また、職員にも、よく伝達できている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度についての研修・講演会に参加し、理を深めることができるよう努めている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者・職員とも、研修に参加し、ミーティングの場で全職員に浸透するよう努めている。日々の申送りにおいても、職員の対応や言葉づかいに留意するよう確認し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、ご家族・ご本人に十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>自由に意見・苦情等を表すことができるよう「苦情箱」をリビングに設けている。また、苦情が言えるような信頼関係作りに努め、苦情受付表を準備している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月 近況報告書をご家族に送付し、暮らしの様子・病院での受診・健康状態を報告している。また、必要に応じて、その都度電話連絡等により報告や相談をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの意見・不満・苦情がホームの方へ届くことは経験していないが、訪問時や電話連絡時に率直な意見が交換できるような関係作りに努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員ミーティング・管理者会議等において、職員の意見交換ができるようにしている。ホーム内の点検・改修などについては 職員の意見がよく反映され、改善にむけて実践することができた。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>しばしば職員不足となり、職員に負担のかかる勤務体制となる時がある。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事情により退職する職員はいるが、長く勤務している職員が多く、なじみのある人間関係ができています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修をうける機会が多く、日々の取り組みに生かす大切さを確認し合うことができています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		職員が地域の同業者と交流する機会が、あまりない。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		健康診断などの機会を得る事ができた。が、福利厚生について、もっと機会がほしい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		全職員が 運営者と接する機会がもっとほしい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護支援専門員・管理者・相談員等が、ご本人のお話を聞き、またアセスメントを行うことができています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談・アセスメントには、家族の同席が必ずある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族・介護支援専門員・管理者・相談員との連携による見極めができています。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>			<p>家族との相談はあり、何度もの見学に努めているが、時間的余裕がない時がある。また、全ての職員に浸透する場と時間がなかなかとりにくい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>グループホームは「家庭」であり、入居の方々はその人らしく過ごす場であることを、全職員が認識しており、職員と入居の方々との信頼関係ができていと思う。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアカンファレンス・電話連絡・近況報告書等により、ケアについての方向、改善点などを連絡することができている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居の方々には、機会がある毎に電話や手紙のやりとりが可能であり、職員も家族の来訪をお願いしている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人の来訪があり、また入居の方々が知人・友人のお宅を訪ねる事ができています。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>			<p>職員は入居の方々が互いに信頼し合い、支えあうことができる人間関係作りに努力しているが、生活歴や考え方の違いにより、困難な点がある。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>折りにふれ、電話連絡ができています。が、ご家族の思いには「断ち切りたい」と思われているご家族が中にはあり、こちらからの連絡を遠慮する場合もある。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中・ケアカンファレンス等により、ご本人のご希望や意向の把握ができています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>介護支援専門員・管理者・相談員等・職員とも、ご本人のこれまでの生活歴やサービスの経緯を、よく話し合う機会をもち、ケアに生かすことができています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の申送り・記録、また機会ある毎のミーティングにより、入居の方々の日々の様子を把握することができています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスにはご本人・ご家族・担当職員・管理者・介護支援専門員が必ず同席している。主治医など関係者の意見も反映された介護計画となっている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体的・精神的な変化を生じた際は、互いに連絡し合い、介護計画の見直し、改善が行われている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録・送り記録等の記録をしており、ケアに生かすことができている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			当グループホーム内でのケアに努めているが、事業所の多機能性を生かすということはまだ生かすことはできていないのではないか。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア・自治会の防災・消防組織との連携ができている。また、近隣の小学校と総合学習等の機会をもつことができている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			地域内の他の事業所、介護支援専門員との話し合いは、介護支援専門員は出来ているが、全職員はあまり機会がない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の構成員に、地域包括支援センターの職員が含まれており、機会がある毎に連携ができている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が歩いていける距離内に主治医がおり、定期的な受診ができている。また、整形外科・眼科・歯科・精神内科の医院も近くにあり、ご希望の受診ができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			主治医は内科医であり、認知症専門医の受診の機会はない。平成20年度には、医療連携に向けた取り組みがなされる計画である。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制への取り組みにより、平成19年12月から正看護師の配属がなされた。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	近年、入院の事実がない。過去に、入院があった時は、管理者・相談員が病院との情報交換・退院にむけた話し合いをおこなった。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成20年度から、医療連携体制への取り組みがなされる。重度化や終末期に向けた方針について、全員で方針を共有することの方向づけができています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	過去、重度化や終末期を迎えた利用者には、病院・家族ともよく話し合い、家族が望まれる方針をとることができた。今後に向けても、体制づくりができつつある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	過去、別のホームや施設に移る際には、十分な情報交換をおこなうことができた。今後も、相互の情報交換・話し合いをしていく方針である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の対応・言葉使いなどには、全職員が入居の方々の誇りとプライバシーを尊重することを心がけ、実践している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>全職員が、日々のケアの中で実践できている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の始まりの時に、和やかな雰囲気の中で、各入居の方々と一日の過ごし方を話し合い、ご希望が叶うよう支援している。外出などが無理な時には、理由や別の日の予定を、話し合っている。</p>	
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>多くの入居者が自らの整容に気遣うことができる。また、介助を要する方には、プライバシーを尊重しながら支援している。理容・美容院は近隣の店を利用している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日、職員と入居の方々と献立を考え、一緒に食事準備や食事、片付けをすることができている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは、毎日職員と入居の方々と話し合い考え合って、購入・準備をしている。おやつ作りを一緒にすることも多い。タバコは、一名が時間と場所を決めて喫煙されている。お酒は、年の行事の際、楽しみにされている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄の状態を把握するように努力し、個々の状況に応じた支援ができています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居の方々の生活のリズムを尊重した入浴ができています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の入居者の状況・ご希望に沿った休息や睡眠ができるように、配慮し、また支援することができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			食事・散歩・入浴など個々のご希望に沿った暮らしができていると思うが、なおその人らしさ、長所が発揮できるような機会をもっと作り出したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、事務室にお預かりしているが、ご本人の希望で自由に使う事ができる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、ご希望により散歩や外出を楽しむ事ができている。日々の食材の購入も職員と一緒にやっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の行事を多く設け、季節毎の行事、外出を楽しむことができている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の入居者のご希望で、電話や手紙のやりとりをすることができている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人・友人の来訪がよくあり、リビングや居室で過ごす事ができている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。一部玄関の扉に鍵をかけているが、安全の為やむを得ない仕儀であることとして、入居時にご家族へ説明をし了解をえている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入などに備えて、玄関には鍵をかけているが、入居の方々の了解を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々のケアの中で、安全確認を怠らない姿勢・体制ができている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁などは、都度収納し、危険回避につとめている。また、夜間は鍵のかかる収納場所に刃物・薬品などを収納している。利用者の方々とも、安全確保・危険回避について話し合っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申送り、日々の話し合いにより、事故防止に努めている。また、外部の研修にも参加し、知識や技術の習得を努力している。		しかしながら、誤えんや窒息については、知識だけでは不安があり、実践に結びつけることが難しい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練・研修の機会を捕らえて、全職員が努力している。実際の場面に会おうとできるかどうかの不安はある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	機会をとらえて災害時の避難方法を、入居の方々と話し合っている。地域の防災訓練には、職員と入居の方々とで参加した。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体状況や精神状況を、近況報告書や連絡により行い、ご家族と日頃より話し合う事ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が身体や精神の変化・異変に留意し、申送りや話し合いをおこなっている。その結果、病院や家族への連絡などをすみやかにおこなうことができている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬局からの説明書等により、理解を深めている。また、服薬による副作用についても、全職員に浸透するよう、申送りや話し合いを行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には、食事やの体操の大切さをよく話し合い、便秘が解消できるような食事のとり方や体操を支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、全ての入居の方々に留意し、個別の支援をおこなっている。訪問歯科を利用し、口腔内の衛生管理をおこなうこともできている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新バイタル表、ケース記録に記録しており、食事量や水分摂取量が把握されている。その結果、個別の対応に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	散歩・外出の際には、必ず手洗いをするよう、職員、入居の方々ともに実践している。感染症の研修には必ず出席し、日々の実践に役立っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い・殺菌・除菌にこころがけている。また、日誌に、清掃・殺菌の記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には安全のためにスロープを設けているが、木製の親しみやすいものとなっている。建物のまわりには、入居の方々がプランターで大切に花を育てている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室・トイレなどには、利用できやすく混乱を招かぬように、配慮した表札をつけている。リビングなどには、季節感が味わえるように、入居の方々が作成した絵などを掲示するようにしている。換気扇の音や照明については、都度点検・修理をおこなった。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	せまさの不都合はあるが、入居の方々がゆっくりと食事やお茶の時間を楽しむ事ができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれの入居者が馴染みのある家具等を利用され、居心地よく過ごす事ができるようになっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節に留意している。リビングや居室では、温度計や湿度計を利用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり・スロープを設置し、身体機能を低下させないように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時計・カレンダーなどを掲示し、入居の方々が利用しやすいように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	せまさの不都合はあるが、ガーデニングや夕涼みができるように工夫している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームたんぼぼは、入居者6名の小さなホームです、その利点を生かし、職員と入居の方々とが信頼し合い、温かい人間関係の中で過ごすことができるよう努めてい